

令和6年10月30日

和牛アカデミー資料

牛肉の販売情勢

全国農業協同組合連合会
畜産総合対策部 畜産販売課

次第

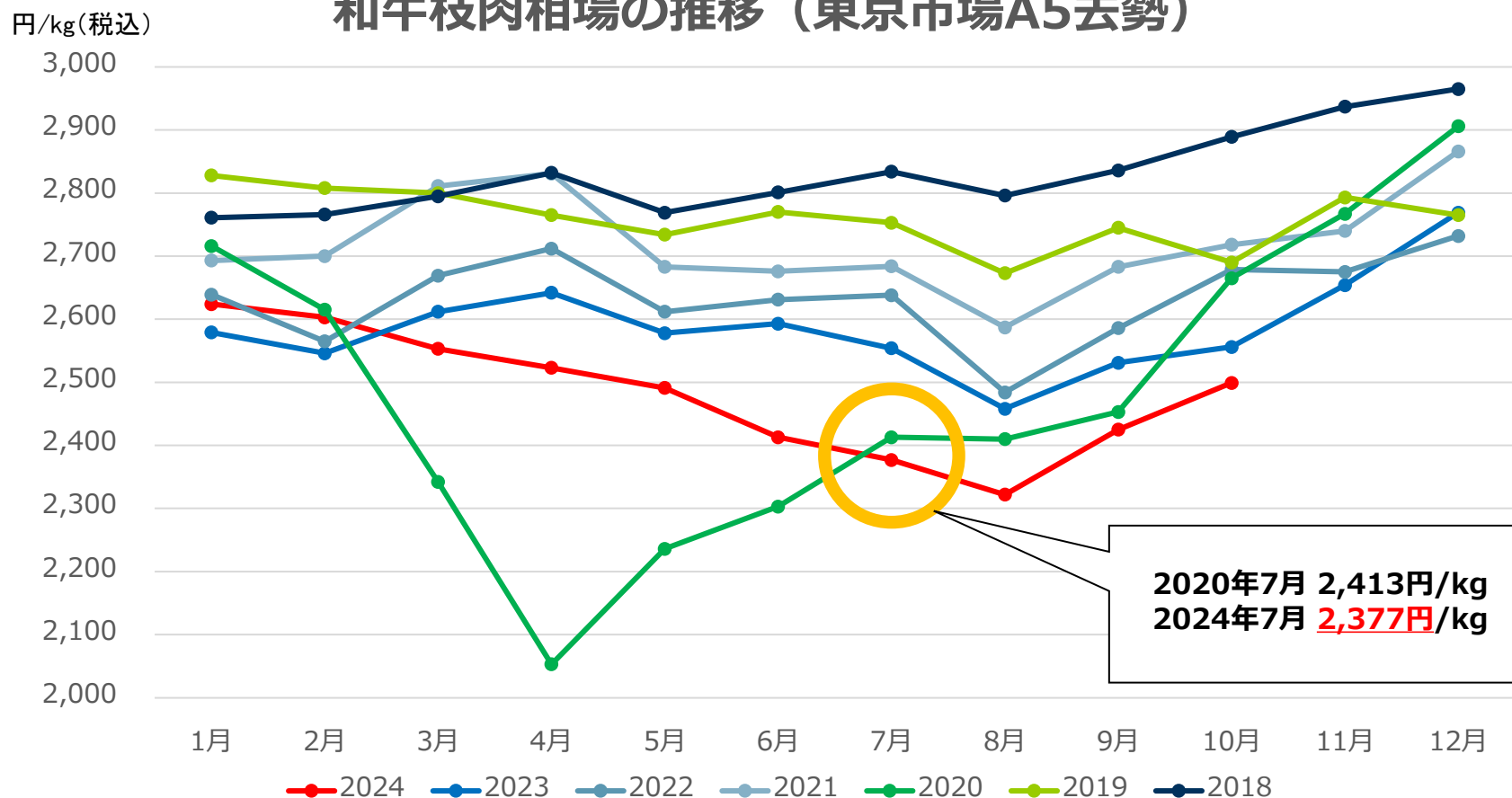
- 和牛枝肉取引価格の推移
- 和牛出荷頭数と肉用子牛価格の推移
- 和牛出荷頭数と 5 等級発生割合の変化①
- 和牛出荷頭数と 5 等級発生割合の変化②
- 和牛 1 頭あたりの重量（部分肉ベース）
- 黒毛和種出荷頭数予測
- 牛肉の推定出回り量
- 牛肉生産量における輸出量の割合
- 国産牛肉の流通量と和牛相場
- （参考）和牛の推定出回り量予測牛肉輸出量の推移
- 牛肉輸出量の推移
- 牛肉輸出量の推移（部位別割合）
- 輸出に関する政府目標①
- 輸出に関する政府目標②

1. 和牛の生産量は増加傾向にあり、今後数年間は高い水準で推移すると予想される
2. 牛肉の消費量が軟調に推移するなか、需給のバランスをが枝肉相場に影響を与える
3. 枝肉相場に連動し肉用子牛価格も連動する見通し
4. 頭数は増加しているが、過去と比較しても現在の相場は低い水準とは言にくい
5. さらに1頭あたりの産肉量は過去と比較しても増加しており、市中在庫は増加している
6. また上物発生率も上昇していることから、過去の数値との単純比較は困難となっている
7. 相場の安定には、海外への輸出も貢献している
8. 政府目標は高く掲げられており、今後輸出の重要性も増す予想となっている
9. 一方で、牛肉生産量に対する国内比率は2.5%程度となっており、国内需要は依然として重要
10. よって、国内需要と海外需要の両輪で販売戦略を立てることが肝要となる

和牛枝肉取引価格の推移

1. 和牛相場について、東京食肉市場の去勢・A5の加重平均は2015年以降最低の水準で推移した。
2. 2024年7月の相場が、コロナが発生した2020年同月の価格を下回った。
3. **和牛の相場は需給バランスによって形成されるため、生産量の推移に注目する必要がある。**

和牛枝肉相場の推移（東京市場A5去勢）



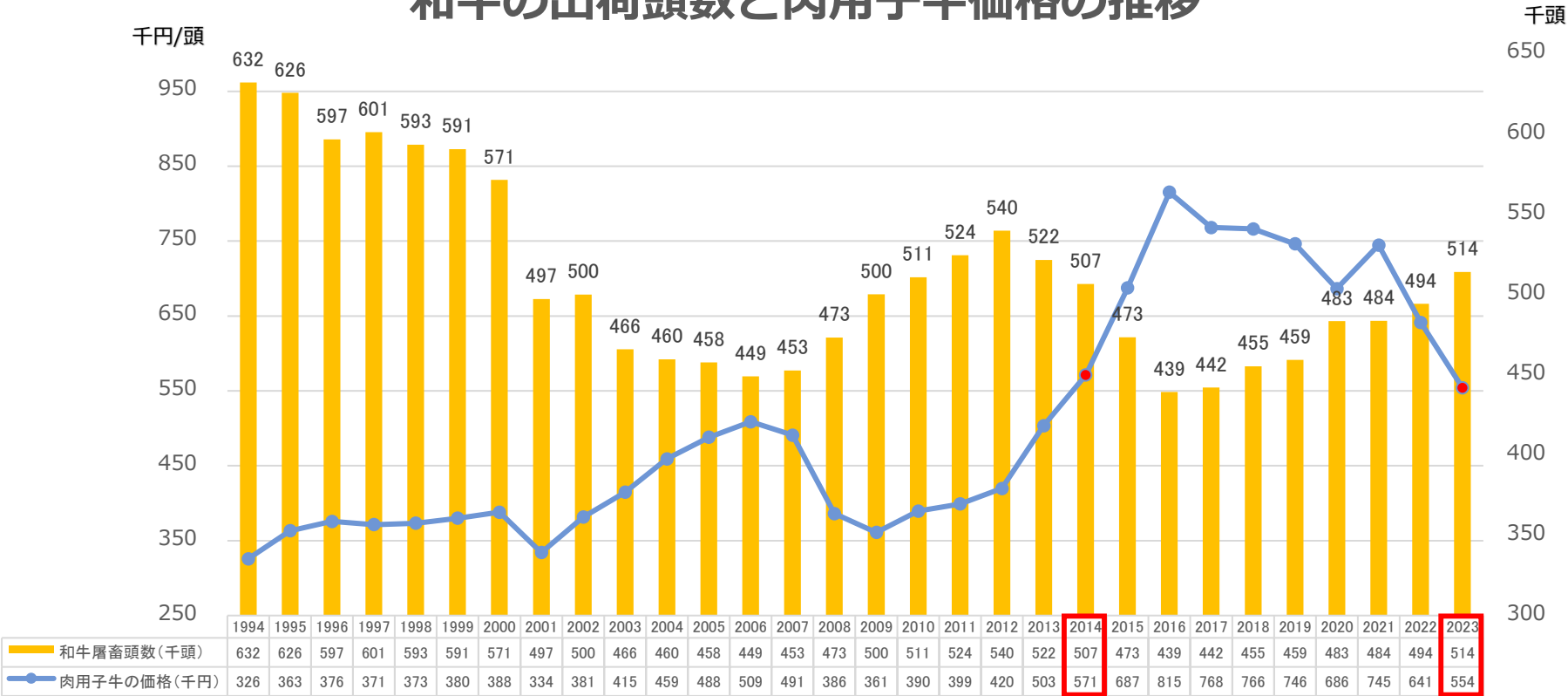
出典：公益社団法人 日本食肉市場卸売協会 加重平均（月・週別）のデータをもとに作成

和牛出荷頭数と肉用子牛価格の推移

1. 和牛の出荷頭数は、R5年度（2023年度）には、H26年度（2014年度）以来となる**50万頭を超えた**。

2. 需給バランスによって肉用子牛相場も変動し、出荷頭数が増加すると同相場は下落している。一方で平成後期から現在までの相場は平成初期から中期にかけての水準よりも高い傾向にある。

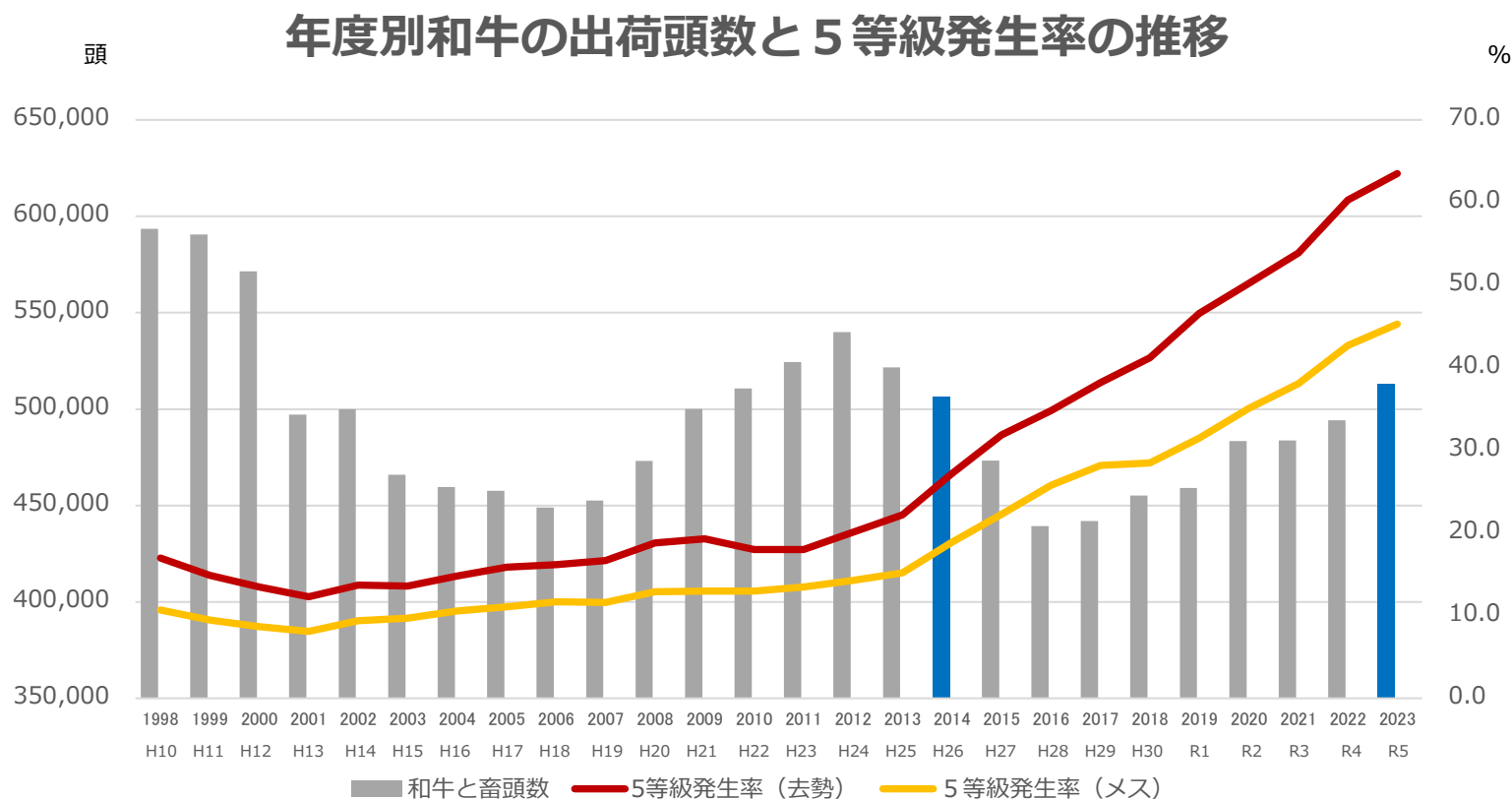
和牛の出荷頭数と肉用子牛価格の推移



出典：alic 統計データをもとに作成

和牛出荷頭数と5等級発生割合の変化①

1. 和牛の出荷頭数は、四半世紀で増減を繰り返しているものの、5等級の発生割合は年々増加傾向にある。
2. 2014年度と2023年度は出荷頭数の水準がほぼ同じだが、5等級の発生率は大きな差があり、頭数だけではない別の要素として市場相場に影響があると推察される。

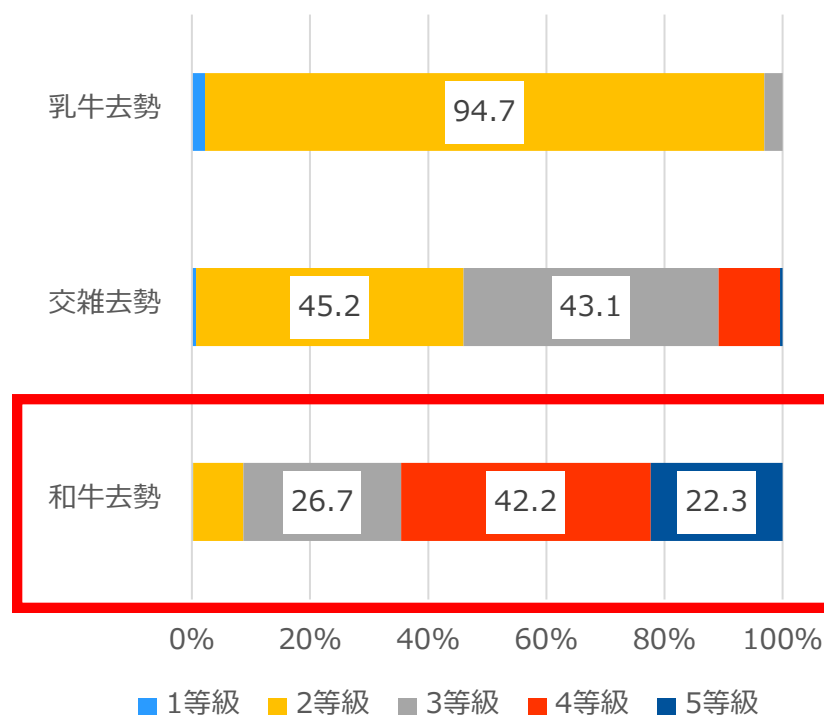


参考：alic 統計データおよび日本格付協会格付けデータをもとに作成

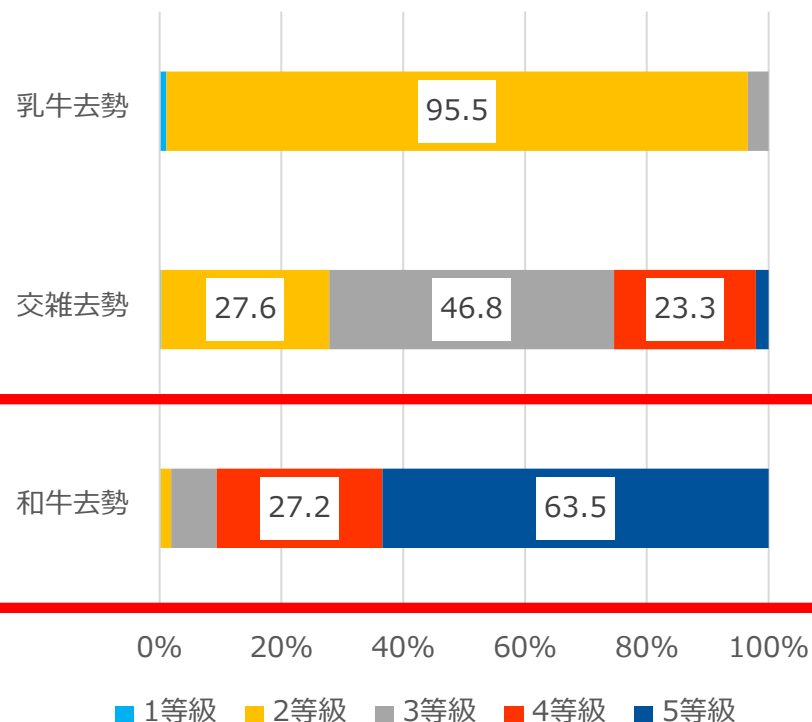
和牛出荷頭数と5等級発生割合の変化②

- 令和5年の格付結果によると、上物率*は和牛去勢で90%、交雑種去勢で72%まで上昇している。
 - 育種改良により和牛が大型化し脂肪交雑が入りやすくなったことに加え、その能力を引き出す飼養管理技術も合わせて向上したことによるものと推察される。
- ※上物率は和牛で4等級以上、交雑で3等級以上と定義

平成25年格付実績



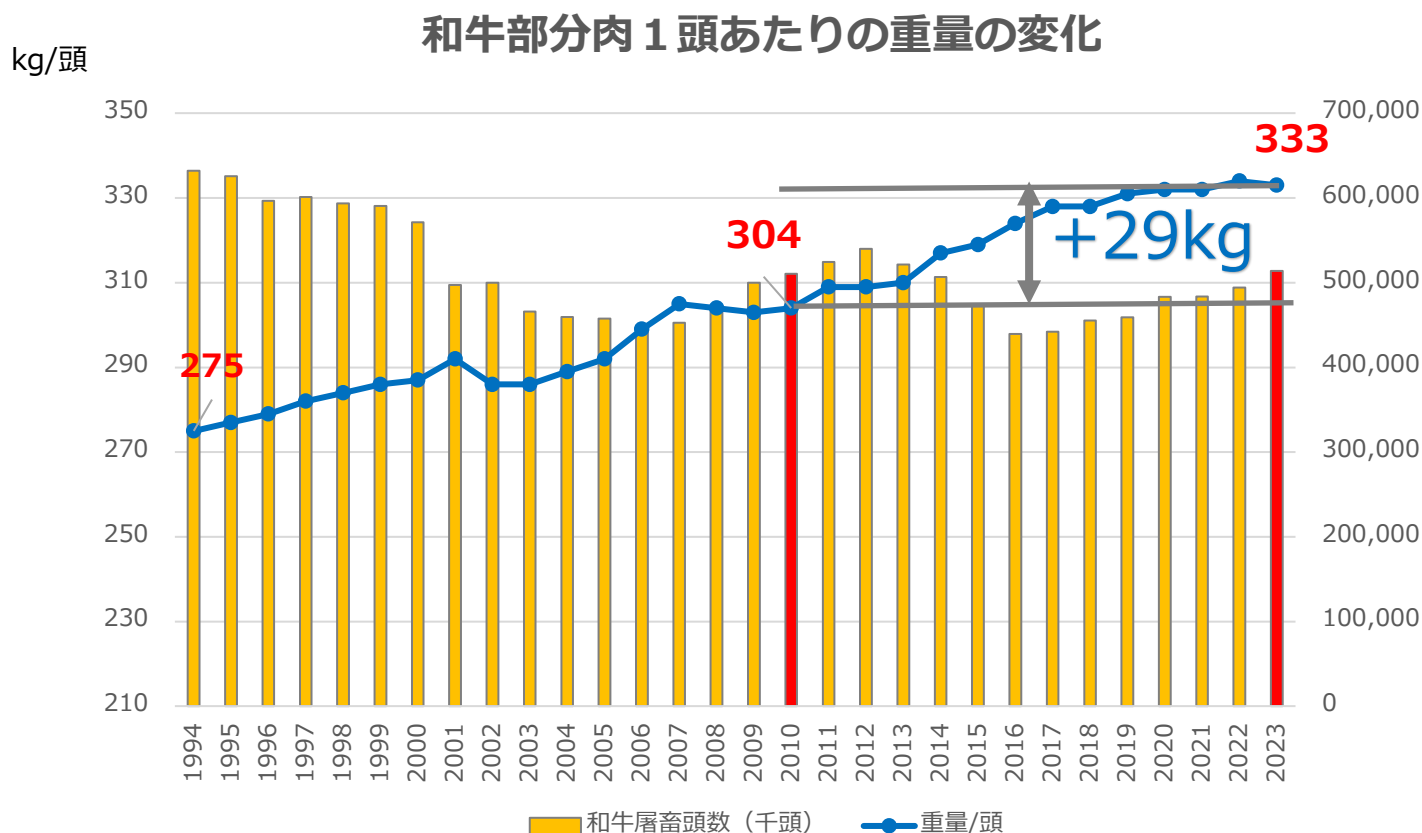
令和5年格付実績



資料：公益社団法人日本食肉格付協会「牛枝肉格付結果」

和牛 1 頭あたりの重量（部分肉ベース）

1. 和牛 1 頭あたりの重量（部分肉ベース）は、1994年度の水準から121%に増加した。
2. 2010年度の屠畜頭数は511千頭、2023年度514千頭とほぼ同水準だが、1頭あたりの重量は304kg/頭に対して333kg/頭と **+29kg** となった。 **$29 \times 510 \text{千頭} = 14,800 \text{ト}$ = 48千頭多い計算**

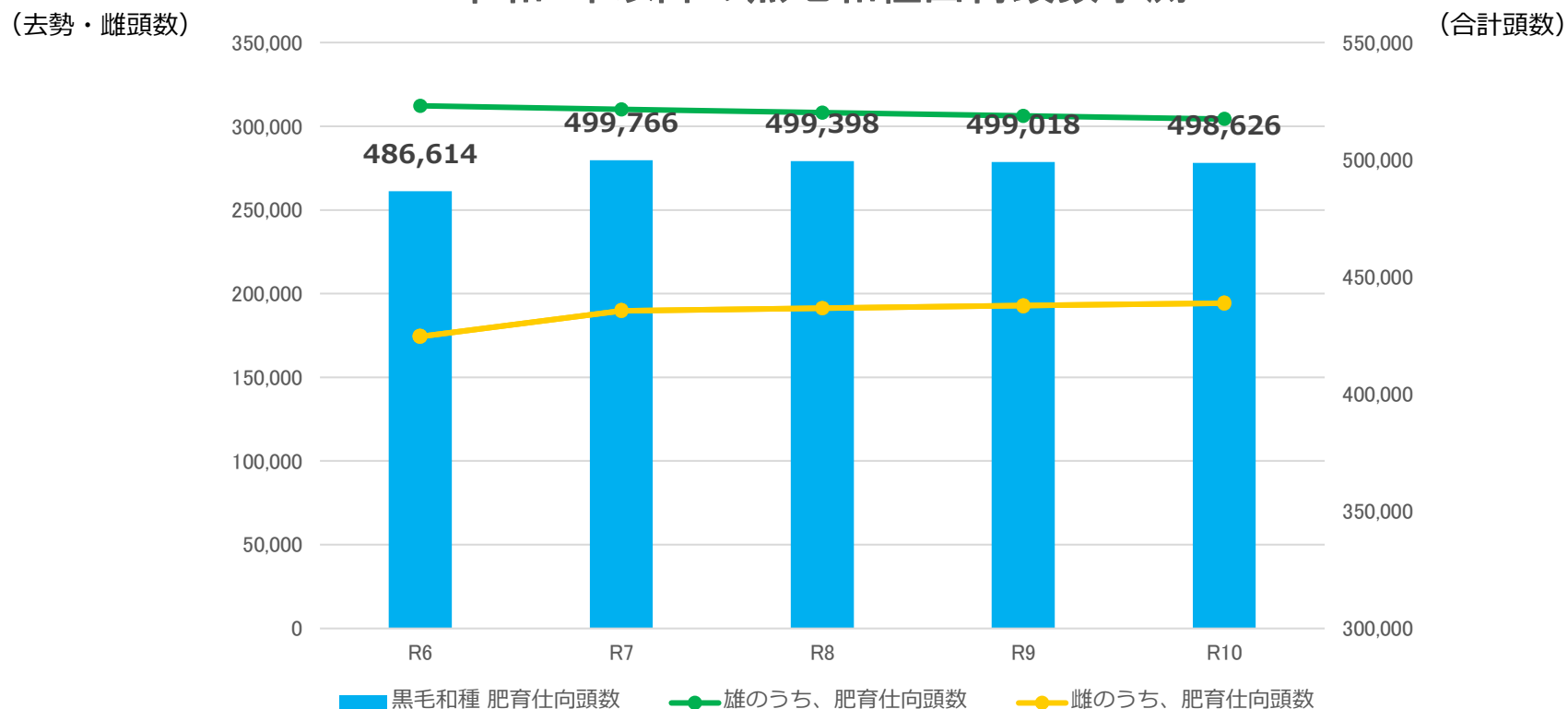


参考：alic 統計データ「牛肉の生産動向（部分肉ベース）」を参考に、各年度の和牛部分肉生産量を年度屠畜頭数で割り算出。

黒毛和種出荷頭数予測

黒毛和種の出荷頭数予測は令和7年度をピークにR10年まで50万頭弱で推移すると予測される。
※下記黒毛和種の頭数に経産は含まず。（経産は40千頭と推定）

令和6年以降の黒毛和種出荷頭数予測



農水省「畜産・酪農をめぐる情勢（畜産統計）」、NLBC「牛個体識別全国データベースの集計結果」、（公社）和牛登録協会「現存雌牛の分娩間隔（全国）」および「黒毛和種受精卵産子登記頭数」などより本会試算

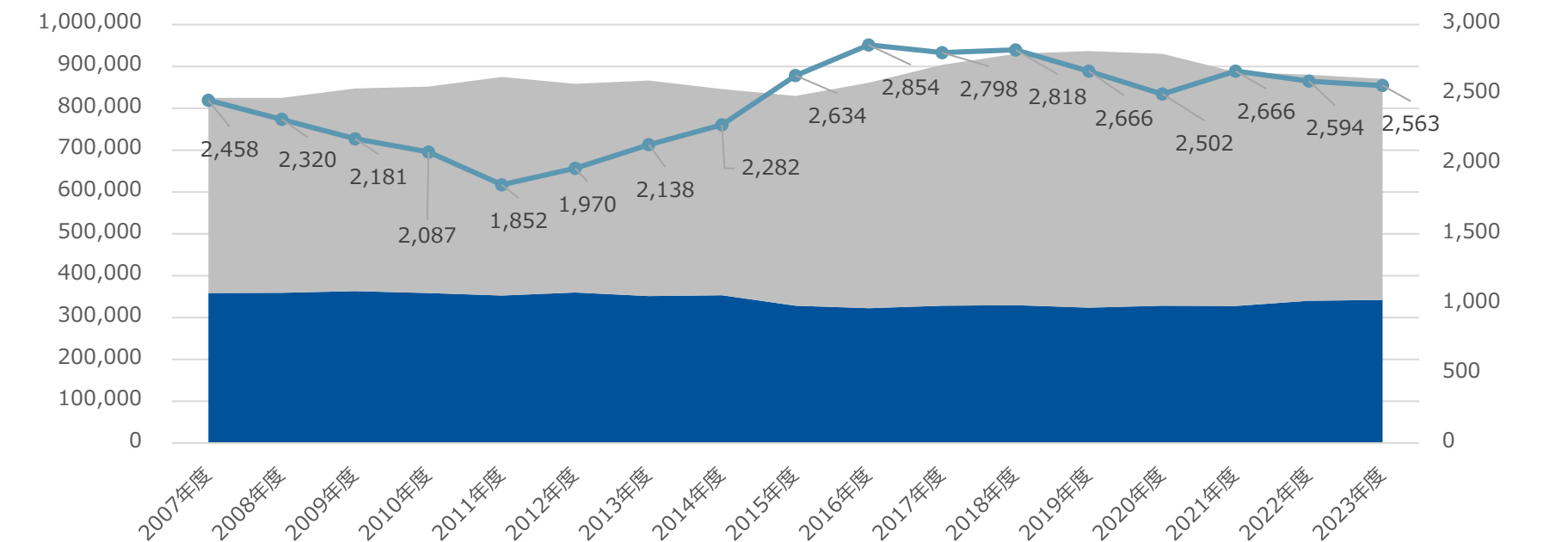
牛肉の推定出回り量

1. 国産品出回り量が**35万ト**付近では相場が下落しているが、現状の相場は過去と比べ低いとはいえない。
2. 一方で、データからは輸入品の増減と和牛相場とは大きな相関関係は見られない。

単位：ト

牛肉の推定出回り量と和牛相場平均の推移

単位：¥/kg(税込)



○直近の推定出回り量の推移

■うち国産品 ■うち輸入品 ●和牛相場平均(kg/¥)

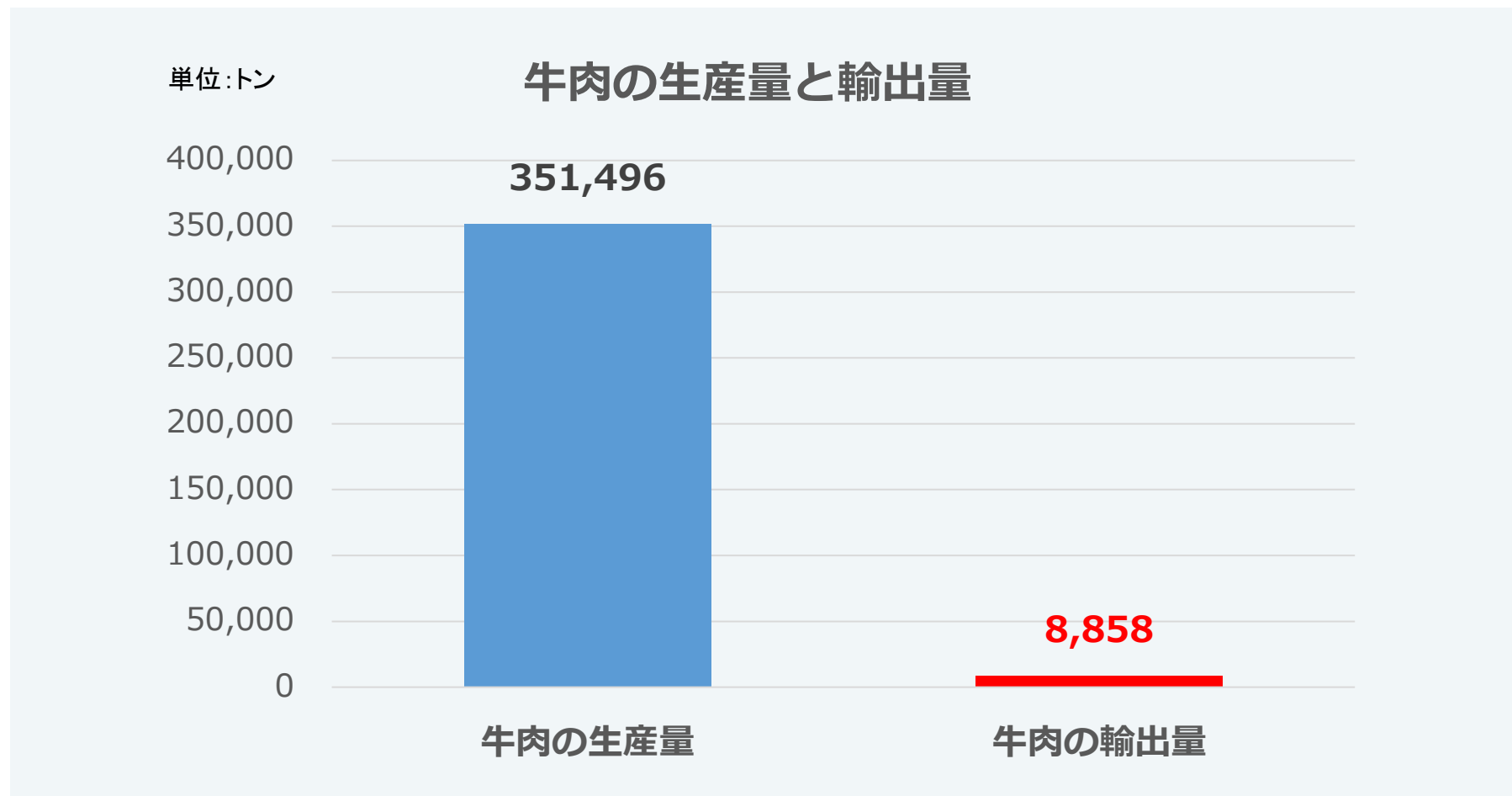
出典：ALIC「牛肉需給表」およびJMMAの相場情報をもとに当部作成

単位：ト

年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
和牛相場平均(¥/kg)	1,852	1,970	2,156	2,302	2,648	2,874	2,820	2,841	2,697	2,534	2,695	2,624	2,593
うち輸入品	522,440	498,514	515,049	492,742	500,834	538,565	575,804	600,550	613,444	602,189	559,383	540,031	527,797
うち国産品	352,699	359,753	351,499	353,361	328,521	322,434	327,998	329,807	323,475	328,101	327,427	340,396	342,235
合計	875,139	858,267	866,547	846,103	829,354	860,998	903,801	930,357	936,919	930,290	886,809	880,428	870,032
国産比率	40%	42%	41%	42%	40%	37%	36%	35%	35%	35%	37%	39%	39%

牛肉生産量における輸出量の割合

1. 令和5年の国産牛肉の生産量は約35.1万トン。
2. 輸出は和牛生産量に対して**2.5%**、つまりほとんどの牛肉や和牛は**国内で消費**されている
疑問＝では輸出は需給に影響がないのか？



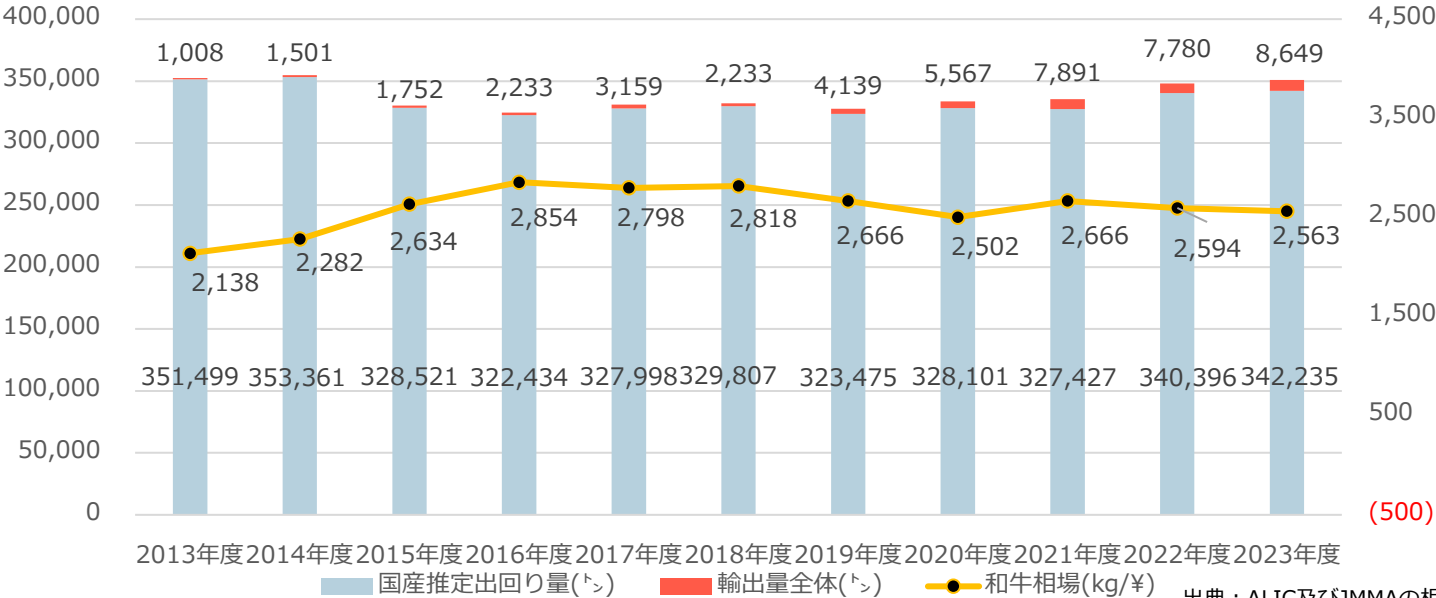
国産牛肉の流通量と和牛相場

1. 輸出の割合は増加傾向にあり、2023年度は国産推定出回量に対して約2.5%まで比率が上昇
2. 輸出比率が低く全流通量の合計が**35万ト前後（2013～14年度）**の時の和牛相場は**低め**に推移し、一方で輸出比率が高く**35万ト前後（2022～23年度）**の相場は**高め**に推移した。
3. **輸出は需給バランスに影響に少なからず影響を与え、国内販売と輸出の両輪で消費喚起することが重要**

単位：ト

国産推定出回り量および輸出量と枝肉相場の推移

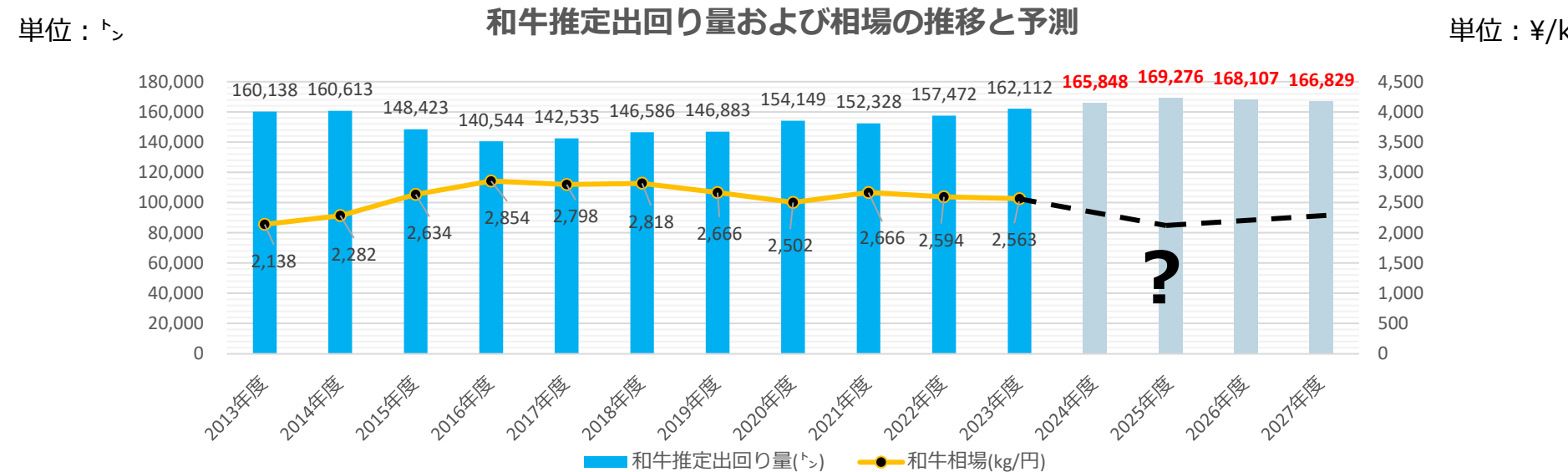
単位：¥/kg



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国産推定出回り量(ト)	351,499	353,361	328,521	322,434	327,998	329,807	323,475	328,101	327,427	340,396	342,235
輸出量全体(ト)	1,008	1,501	1,752	2,233	3,159	2,233	4,139	5,567	7,891	7,780	8,649
流通量合計(ト)	352,507	354,862	330,273	324,667	331,157	332,040	327,614	333,668	335,318	348,176	350,884
和牛相場(kg/¥)	2,138	2,282	2,634	2,854	2,798	2,818	2,666	2,502	2,666	2,594	2,563
輸出比率(%)	0.29%	0.42%	0.53%	0.69%	0.96%	0.68%	1.28%	1.70%	2.41%	2.29%	2.53%
前年比	-	149%	117%	127%	141%	71%	185%	134%	142%	99%	111%

(参考) 和牛の推定出回り量予測

- 1. 和牛想定出回り量も、相場との間に一定の相関関係がある。
- 2. ただし、2014年度の出回り量の水準と、2022、23年度の水準はほぼ同じだが、相場に約300円(税込)の開きがある。輸出量も相場に影響を与えていると考えられる。



※和牛推定出回り量の算出条件：①輸出量：年110%増加、②和牛流通量：出荷頭数予測をもとに算出、③出回り量=(流通量－輸出量)÷正肉1頭あたり333kg

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
国産推定出回り量(㌧)	351,499	353,361	328,521	322,434	327,998	329,807	323,475	328,101	327,427	340,396	342,235				
輸出量全体(㌧)	1,008	1,501	1,752	2,233	3,159	2,233	4,139	5,567	7,891	7,780	8,649	9,514	10,466	11,512	12,664
流通量合計(㌧)	352,507	354,862	330,273	324,667	331,157	332,040	327,614	333,668	335,318	348,176	350,884				
和牛流通量(㌧・予測)	161,146	162,114	150,175	142,777	145,694	148,819	151,022	159,716	160,219	165,252	170,761	175,362	179,742	179,620	179,493
和牛推定出回り量(㌧)	160,138	160,613	148,423	140,544	142,535	146,586	146,883	154,149	152,328	157,472	162,112	165,848	169,276	168,107	166,829
和牛相場(kg/円)	2,138	2,282	2,634	2,854	2,798	2,818	2,666	2,502	2,666	2,594	2,563				
輸出比率(%)	0.29%	0.42%	0.53%	0.69%	0.96%	0.68%	1.28%	1.70%	2.41%	2.29%	2.53%				
前年比	-	149%	117%	127%	141%	71%	185%	134%	142%	99%	111%	110%	110%	110%	110%

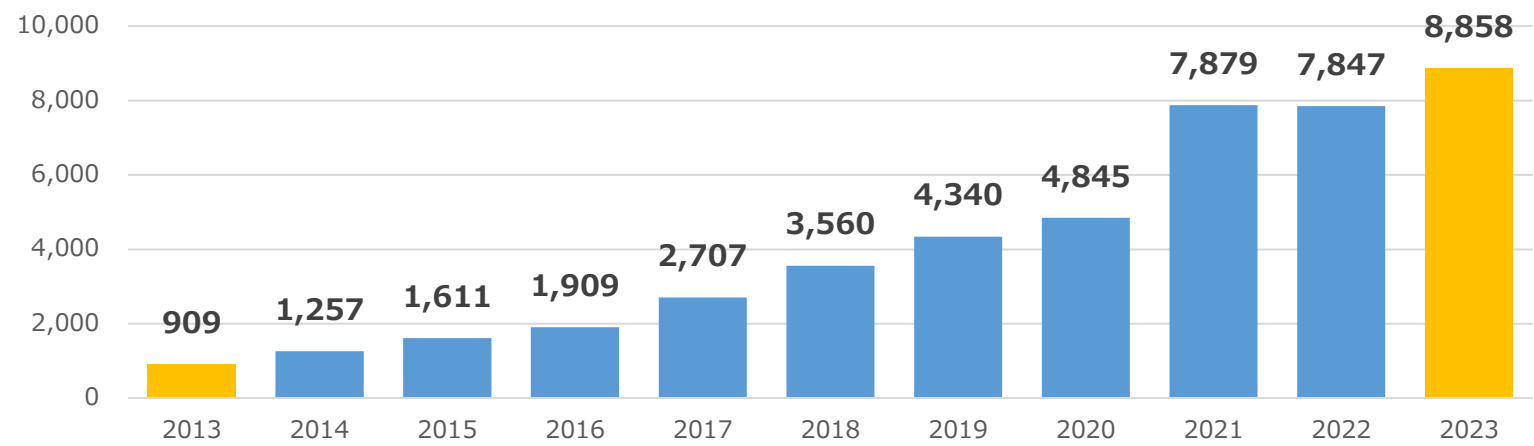
出典：ALIC及びJMMAの相場情報をもとに当部作成

牛肉輸出量の推移

1. 牛肉の海外への輸出量は令和 5 年に8,858トンとなった。2013-2023年比で974%上昇している。
2. 令和 6 年度の1- 8 月の累月実績は、5,684トン（前年比113.0%）と伸長している。

日本の牛肉輸出量の推移

単位：トン

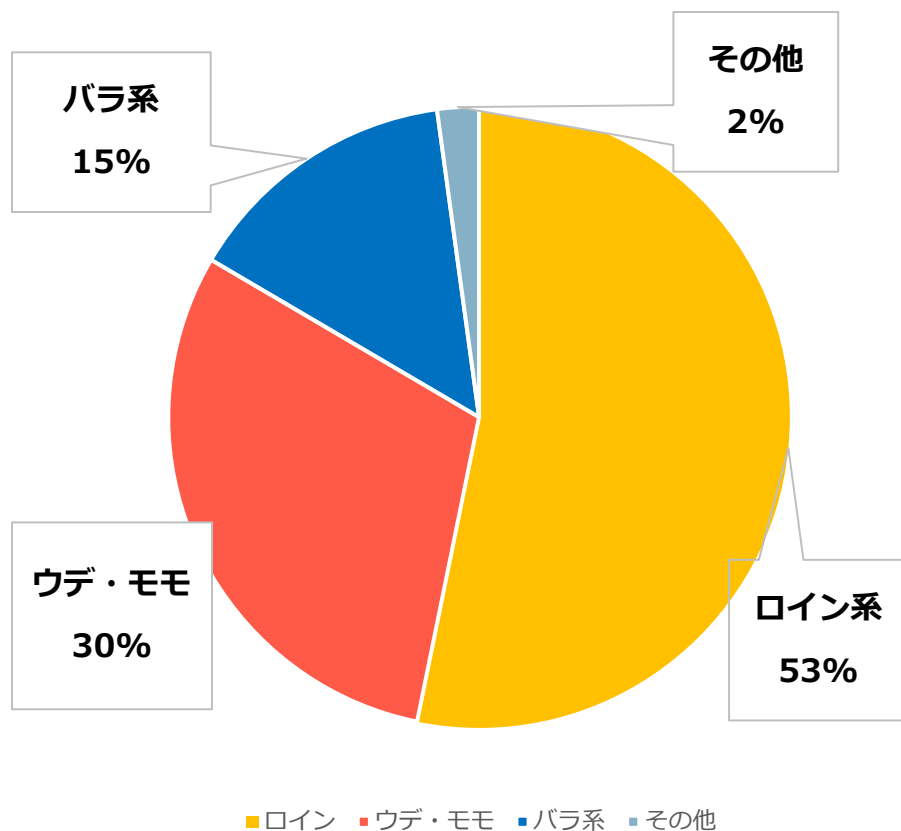


主要地域別輸出量(トン)	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	17-23年比	22-23年比
EU/英国/スイス	133	167	214	158	366	510	570	428%	112%
カンボジア	544	786	1,158	1,175	2,218	906	1,131	208%	125%
香港	792	709	878	1,091	1,383	1,366	1,520	192%	111%
台湾	211	628	633	815	972	1,246	1,595	755%	128%
米国	374	421	398	525	1,178	1,073	1,141	305%	106%
シンガポール	227	247	289	320	463	595	542	239%	91%
その他	651	601	769	761	1,298	1,759	1,920	295%	109%
輸出量全体	2,933	3,560	4,339	4,845	7,879	7,454	8,419	287%	113%

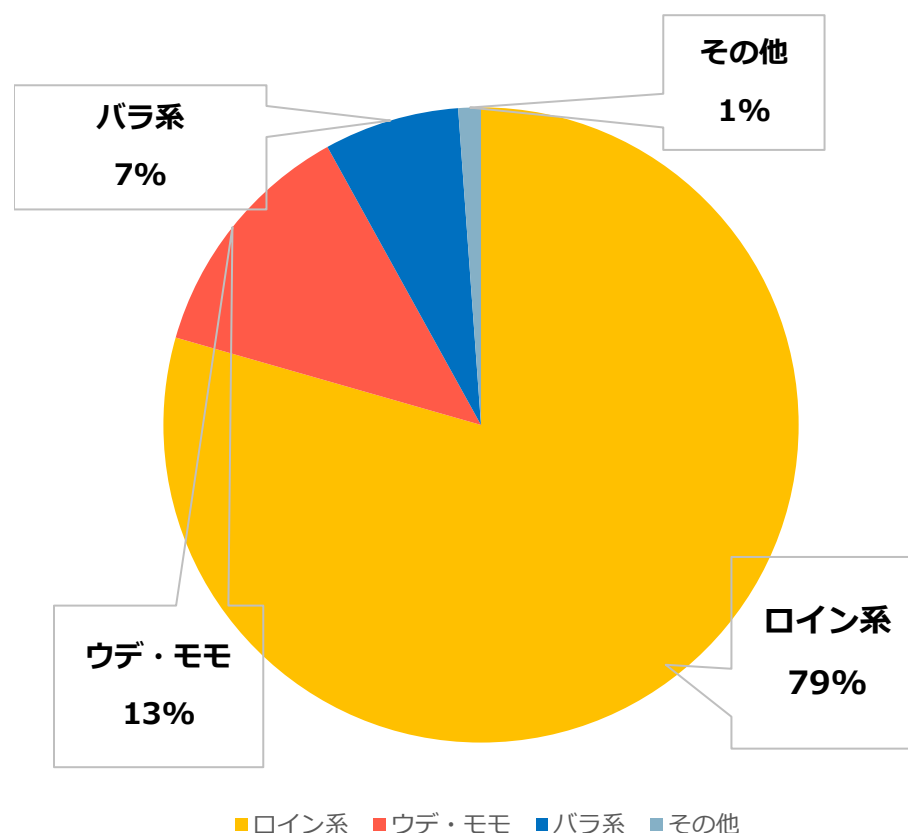
牛肉輸出量の推移（部位別割合）

1. 2023年の全世界向けの部位別輸出量はロイン系が約半数を占めた。
2. 一方対米向けについてはロインが約8割を占めた。
3. 欧米系はロイン系が多く、それ以外はロイン以外の部位の割合が多いことがわかる。

部位別輸出内訳 2023年

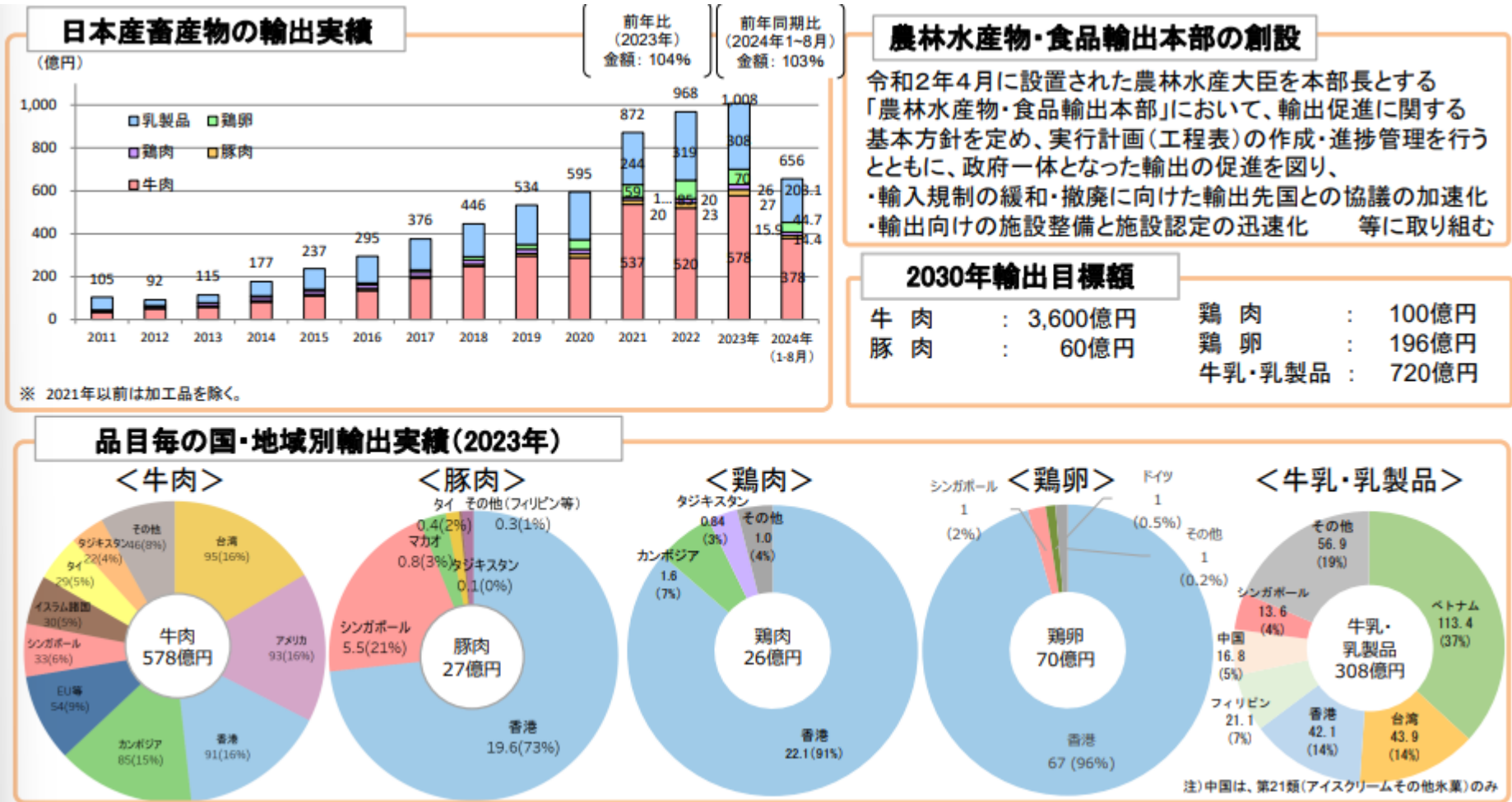


対米向け部位別輸出 2023年



輸出に関する政府目標①

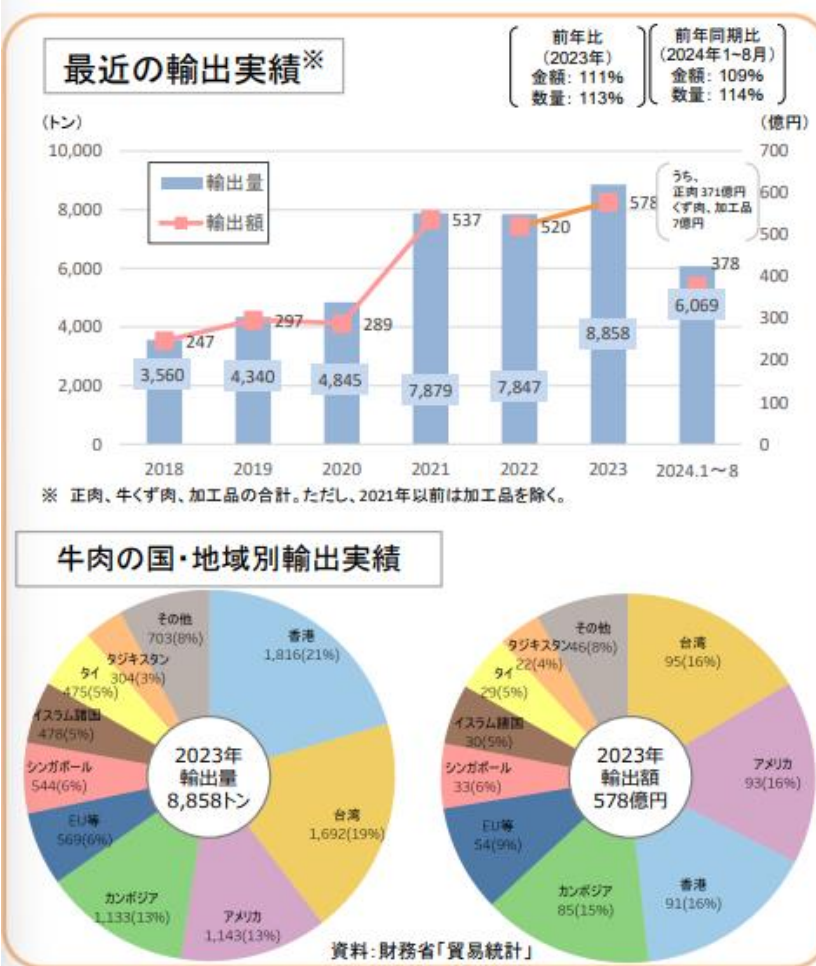
1. 2023年の畜産物輸出実績は1,008億円。牛肉は他の畜種の中で最も多く全体の約半数を占める
2. 日本政府が掲げる畜産物の輸出目標は、2030年 4,676億円（2023年実績の4.6倍）
3. 非常に高い目標であることがわかるが、積極的に推進する意思が込められている。



出典：農林水産省「畜産物の輸出について」

輸出に関する政府目標②

1. 2023年の牛肉の輸出実績は578億円。
2. 日本政府が掲げる牛肉の輸出目標は、2030年 3,600億円（2023年実績の約6.3倍）
3. 畜産物全体の輸出目標よりも高い水準で設定されている。



2030年輸出目標: 3,600億円
(2025年輸出目標: 1,600億円)

○ 輸出可能国・地域
香港、台湾、シンガポール、タイ、ベトナム、
米国、EU、英国、カナダ、オーストラリア、
マレーシア、インドネシア、UAE、
ロシア、ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ 等

○ 輸出解禁協議中の国
中国、韓国 等

＜輸出先国・地域別の施設認定状況＞ (2024年9月末現在)

	香港	台湾	米国	シンガポール	EU	タイ	マカオ
施設数	14	28	16	20	12	83	77

輸出拡大実行戦略に定める主な取組

○ オールジャパンでの和牛認知度向上に向けた、
日本畜産物輸出促進協会によるプロモーション

○ 輸出先国の求める衛生基準に適合
した食肉処理施設の整備・認定迅速化

○ 生産者・食肉処理施設・輸出事業者が
生産から輸出まで一貫して輸出促進を
図る「コンソーシアム」を産地で構築

○ スライス肉、小割肉、食肉加工品等の新たな品目の
輸出促進

○ 中国等向け輸出解禁協議の加速化



出典：農林水産省「畜産物の輸出について」

全農

全国農業協同組合連合会

- 16 -

© 2024 ZEN-NOH